

1 学校教育目標 豊かな心を持ち よく考え 進んで実践する子どもを育てる	2 本年度の重点目標 ①学校・家庭・地域の連携強化…地域のよさを発見し、地域に貢献しようとする児童の育成 ②豊かな心の育成…感謝の気持ちと思いやりがあり、心のふれあいができる児童の育成 ③確かな学力の育成…確かな知性と創造性を持ち、自ら学び課題解決ができる児童の育成 ④強い心と体の育成…強い意志と体力をもち最後まで頑張り抜く児童の育成
--	---

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①学校・家庭・地域の連携強化…地域のよさを発見し、地域に貢献しようとする児童の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質向上	教師の授業力向上	・校内研究での道徳の時間を中心に「かかわる力」というキーワードを基に授業研究、授業公開を全職員が実施し、授業力向上に努める。	・道徳の時間の全体授業研究会を年2回実施し、全体の共通理解を図りながら研究を深めていく。 ・自分の思いや考えを伝え合う場や、道徳的価値の自覚を図る発問・板書・ワークシートの工夫に取り組む。 ・積極的に一人1回は授業を公開し、互いに学び合い、高め合う場を設定する。 ・全教科等で、「かかわる力」というキーワードをもとにした授業実践を行う。 ・全教科等で、授業のユニバーサルデザインに取り組む。
	○地域との連携強化	教育目標の周知や保護者・地域への情報発信と連携の強化	・教育目標の周知目標 保護者90%以上 外部80%以上 ・授業参観やPTA総会等への参加率、ノーテレビノーゲームデーの実施率を上げる。 ・学校運営協議会、老人会、民生委員、婦人会等校区内の各団体との連携を密にし、関係充実を図る。	・必要に応じて、校区内の各団体と連絡調整を図り、学校行事等への協力を具体的に依頼する。 ・学校HP、南小だより、はなまる連絡帳等による情報公開や広報活動を充実させる。 ・学校運営協議会の取組や地域の方々の活用の様子等についてコミュニティ・スクールだより等により積極的に情報発信を行う。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	・「3K(可視化、共有化、効率化)で業務改善」を推進するとともに、昨年度の超過勤務時間42.6時間(1ヶ月平均)を、10%削減する。	・公務サーバー上で各分掌が情報共有を行いやすいように、フォルダ構成を工夫する。 ・SEI-Netや連絡掲示板を活用したり、行事予定の早めに提示したりしながら、資料のやり取りや職員間の連絡を効率的に行う。 ・1ヶ月の超過勤務時間が長い職員には、管理職が個別に声かけを行う。

②豊かな心の育成…感謝の気持ちと思いやりがあり、心のふれあいができる児童の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える児童80%以上を目指す。 ・「白石に愛着を持っている」と回答する児童80%以上を目指す。	・「将来の夢」を毎年年度末に記入し、自分の夢の実現のために、今できることは何か考えさせる時間を設ける。 ・道徳の時間を中心に、郷土愛について学び考え、自分が住んでいる地域に対する愛着を深める。 ・伝統芸能や郷土料理など、地域の人材を活用した体験活動を実施する。
	●心の教育	かかわる力の育成	・Q-Uテストの学級生活満足群の割合70%以上を目指す。	・友達との支え合いや助け合いを生む学級活動を仕組み、親和的な人間関係を育てる。 ・縦割り活動(掃除、遊び等)を充実させ、共感的人間関係を育てる。 ・校内の掲示など環境整備を充実させ、児童の感性を高める。
	●自己を律する力の育成	自己を律する力の育成	・「学校の決まりを守り、進んであいさつができた、正しい言葉遣いをしたりしている」が80%以上を目指す。 ・毎月の生活目標の徹底させる。	・「南小のくらしの約束」を各家庭に配布し、家庭と連携を図りながら指導する。 ・毎月の生活目標について各学級で具現化し、がんばることを決め取り組む。 ・各学年の取り組み内容や状況について放送等で紹介し、頑張っていることを認める場を作る。
●いじめ問題への対応	相手を思いやる心の育成	・「友だちと仲良く活動することができている」が80%以上を目指す。	・Q-Uテストや生活アンケート、教育相談週間を年に2回実施して児童の実態を把握し、指導に生かす。 ・人権・同和教育や平和教育、命の教育を計画的に実践する。	

③確かな学力の育成…確かな知性と創造性を持ち、自ら学び課題解決ができる児童の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力の向上	学ぶ意欲の向上と基礎基本の定着	・1月のCRTテストにおいて全学年全国平均を上回る。 ・自分の考えを相手に分かるように工夫して書くことができた、伝えることができた、と肯定的な回答をする児童を70%以上にする。	・西部型授業を意識しながら授業を行う。とくに、何ができるようになればいいのか、何を考えればいいのかなど、児童が具体的にイメージできる「めあて」の提示や児童の発言を取り上げたり、キーワード等を示したりして、児童が「まとめ」を行うような授業を行う。 ・全教科において、書く活動、話し合う活動を取り入れる。 ・各学級でCRT調査等を分析し、結果に応じて「アシストシート」を活用する。朝の時間の国語タイムや算数タイム、また家庭学習に活用し、基礎・基本の定着を図る。「アシストシート」は使いやすいよう、クリアファイルに入れ整理する。また、すぐ使えるようにあらかじめ印刷し学年の棚にいれておき、活用を促すようにする。 ・6月と9月の授業参観に合わせ、『ノートコンテスト』を実施する。児童の学習のがんばりを披露する場とする。6月は学習ノート、9月には自主学習ノートを展示する。
	●特別支援教育の充実	特別支援教育の充実	・児童の実態を把握し、必要と認められたすべての児童に対して「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の策定、実施、	・計画的に子ども支援会議を開き、全職員の共通理解のもと、児童の支援に努める。 ・通常学級在籍で支援の必要な児童の具体的な支援の在り方について、講師を招き、研修会を行う。

④強い心と体の育成…強い意志と体力をもち最後まで頑張り抜く児童の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	外遊びの奨励と定着化	・「1週間のうちに3回以上は外で遊ぶ」と回答する児童が85%を超えるようにする。	・業間や昼休みの外遊びの奨励と働きかけの工夫を委員会活動を通して行い、外遊びをよくする児童とそうでない児童の二極化を防ぐ。 ・縦割りグループ遊びの奨励を行う。
	●生活習慣の形成	望ましい生活習慣の形成	・早寝の習慣が定着している児童の割合を80%以上、朝ごはんを食べて登校する児童の割合を95%以上にする。	・望ましい生活習慣の意識づけのため、9月・1月の初めに1週間続けての健康チェックを行い、その結果を家庭に返し、家庭の意識も高める。
	●食育の推進	食育の推進	・食事のマナーを身につけ、食べ物への感謝を忘れず、嫌いな食べ物でも食べることに挑戦する児童を育てる。	・月ごとの給食のめあてを教室に掲示し、給食時間に、食べ物の栄養と食事に関するマナーについて指導を行う。 ・各学級において、栽培活動を通して、食べ物への興味関心・感謝の心を育てる。